

1 建築物

(3) 廊下等及び各室の出入口②

●整備例

● 条例による整備基準

◇ ハートビル法による誘導的基準

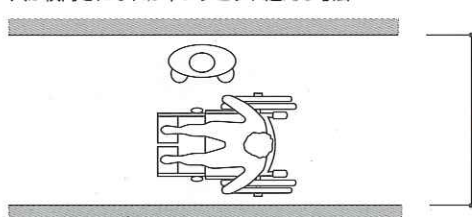
無印 標準的な寸法や配慮の例

▲ 参考事例等

✕ 注意マーク

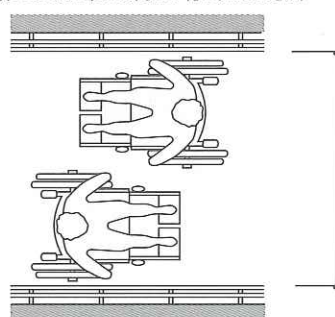
廊下の内法

車いすや松葉杖使用者が通行しやすい寸法
人が横向きになれば車いすですれ違える寸法



● 120cm以上

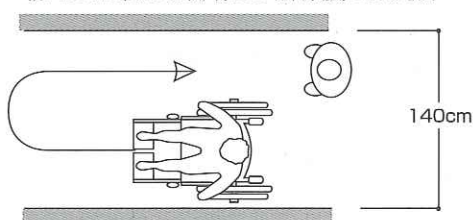
幅180cm: 車いす同士が行き違える寸法



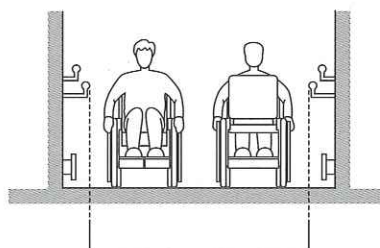
◇ 180cm以上

(参考)

幅140cm: 車いすが転回(180°方向転換)できる寸法

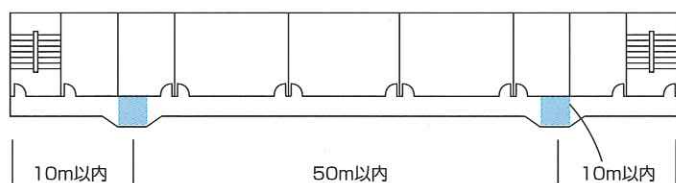


140cm



◇ 180cm以上

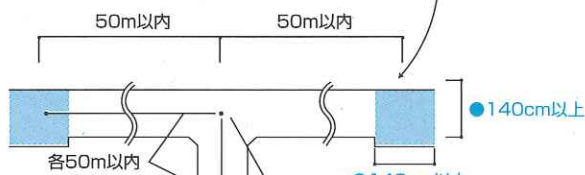
車いす転回スペースの設置例



● 有効幅120cm以上

◇ 有効幅180cm以上

(廊下等の幅は、内法を180cm(廊下等の末端の付近及び区間50m以内ごとに2人の車いす使用者がすれちがうことができる構造の部分)を設ける場合にあっては、140cm)以上



● 140cm以上

● 140cm以上

幅120cm以上の廊下が交差する部分

(廊下等の末端付近及び区間50m以内ごとの構造)

● 車いすの転回スペース(140cm角以上)

◇ 廊下の幅が180cm未満の場合、車いすのすれ違いスペース(180cm角以上)を設置

■ が設置場所

出入口から受付までの廊下等の整備例

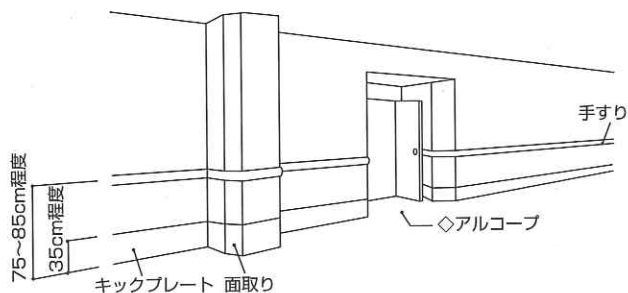
⚠ 玄関から、常時人の居る受けまで視覚障害者誘導用床材を敷設します。

案内板の設置

受付

⚠ 受付は、玄関からわかりやすい位置に設けることが望まれます。

廊下の整備例



⚠ 廊下の角や交差部分は、衝突の危険防止を図るため、できるだけ大きな隅切りまたは面取りを施して見通しを良くします。

⚠ 廊下には、必要に応じて、手すり、キックプレートを設置します。

⚠ 廊下の手すりは、歩行困難者が体を支えたり、視覚障害者の歩行を誘導する際に助けになるものです。

⚠ 手すりは、廊下の両側に、床上75cm~85cm程度の高さ（高齢者用は60cm~75cm程度）に連続して設置します。

⚠ 高齢者、障害者等の利用が多い施設にあっては、2段手すりを設けます。

⚠ 手すりが見えるようにしておくために、手すりの前に物を置かないようにします。

手すりの設置例 P.167〔手すり〕参照

あまり使用しない常時鍵のかかっているドア

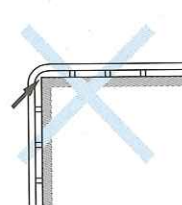
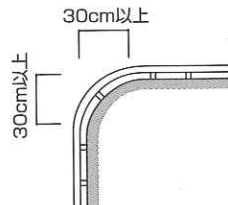
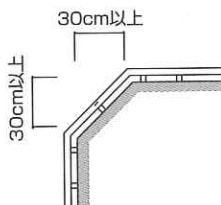
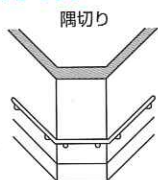
⚠ 連続して設置することが望まれます。

キックプレート設置例



⚠ 車いすは蛇行しやすいので、車いすの車輪やフットレストが壁に当たったり、車いすと壁との間に指をはさまれたりします。これを防止するために、キックプレート（車いす当たり）を設けることが有効です。

廊下の角の例



⚠ 廊下の曲がり角部分の危険防止として、「隅切り」又は「面取り」を設けたり、コーナーにカーブミラーを設置する方法があります。

⊗ 直角部分は、手すりの取り付け方によっては手をはさむ危険があります。

1 建築物

(3) 廊下等及び各室の出入口③

●整備例

● 条例による整備基準

◇ ハートビル法による誘導的基準

無印 標準的な寸法や配慮の例

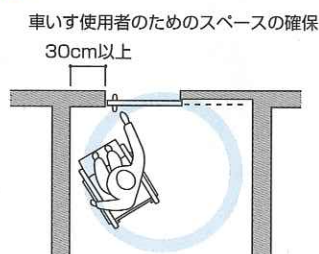
▲ 参考事例等

✕ 注意マーク

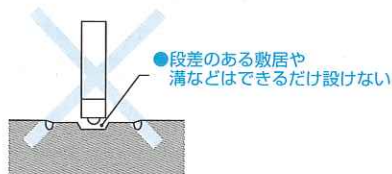
戸の形式

▲ 戸の形式は利用状況に応じて適宜選択するが、吊り戸式引き戸、引き戸、開き戸（内開き）の順に望まれます。

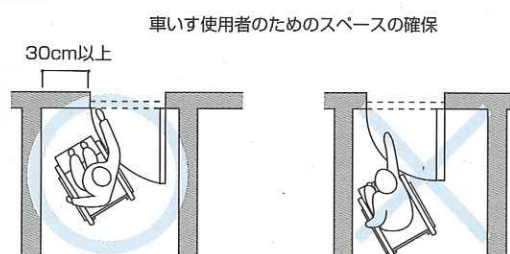
引き戸の形式



- ▲ 引き戸は、原則として室内側に取り付けます。
- ▲ 引き戸の形式は、上吊り式で軽快に開閉できるものとします。通常の引き戸にする場合は、敷居の溝などの凹凸はできるだけ生じないものとします。
- ▲ 引き戸は、通過する際に体の向きをかえたり引き下がったりする必要がないため、高齢者、障害者等にとって通過しやすい形式です。

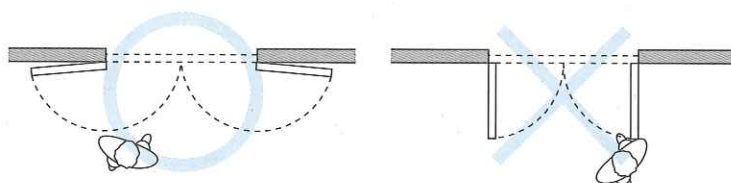
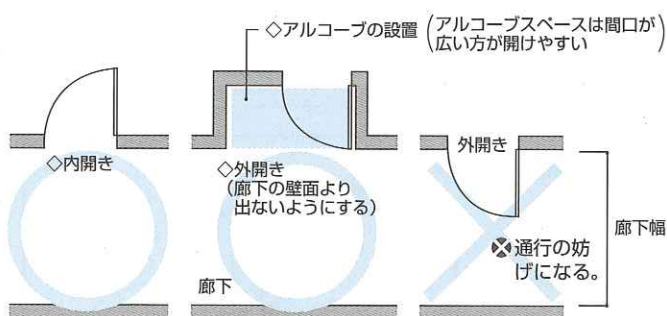


開き戸の形式



- ▲ 取っ手側の袖壁部分に車いす使用者が寄りつくための空間を30cm以上確保します。
- ▲ 閉鎖作動時間を十分に確保したドアチェックを設置し、軽く緩やかに開閉するように配慮します。

- ▲ 開き戸は、原則として内開き（室内側への開き）とします。やむを得ず外開き（廊下側への開き）とする場合は、アルコーブを設置します。



- ✕ 戸を常時開け放つ場合は、視覚障害者がぶつかる危険があるので開ききることが望まれます。

出入口の内法

引き戸

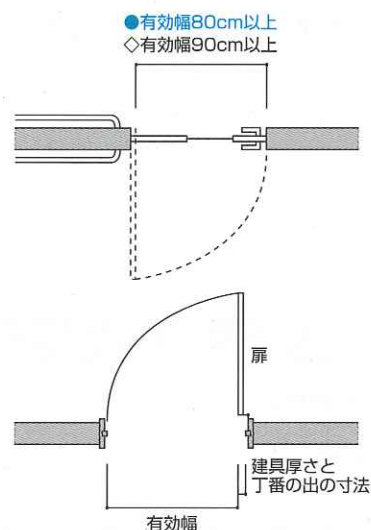


戸の引き込みしろがない場合



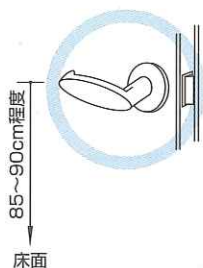
取っ手の形式

開き戸



出入口の内法

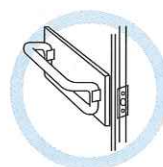
レバーハンドル



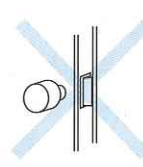
棒状



パニックバー



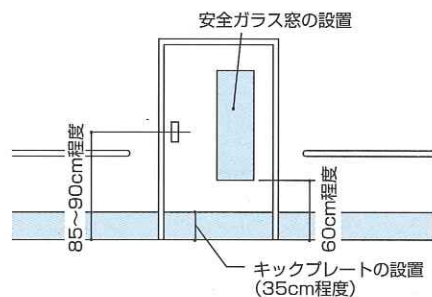
握り玉



❌ 握る、回す、押す(引く)の動作が必要となるため手や上肢の不自由な方に使いづらい。

- ⚠ 取っ手の形式は、引き戸では棒状のもの、開戸ではレバーハンドル式のものを使いやすい。
- ⚠ 取っ手の取り付け位置は、中心が85cm~90cm程度とし、施設全体で統一的な高さに設置します。

出入口付近の寸法



- ⚠ 各ドアには、床上35cm程度の高さまでキックプレートを設置します。
- ⚠ ドアの開閉を安全に行うために、ドアの反対側にいる人物やものなどの動きがわかるように、車いす使用者にも確認できる高さ(床上60cm程度の位置を下端とする)に安全ガラスを入れることが望まれます。